



岡崎市西牧野遺跡



現地説明会資料



西牧野遺跡遠景（西から）

日時 2009年10月24日（土）午前10時
場所 西牧野遺跡発掘調査現場
主催 （財）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
支援 安西工業株式会社

西牧野遺跡 (にしまきのいせき)

岡崎市樺山・牧平町に所在する西牧野遺跡において、平成21年度4月から第二東名自動車道建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会から委託を受け発掘調査を行っています。

遺跡のある一帯は大小の河川が幾筋も流れるやや開けた盆地状の地形をなしています。付近には牧平遺跡（縄文晩期）、さらに上流域には下堀津遺跡（縄文後期）の集落の存在が知られており、古くから人々が様々に利用してきた場所でした。

今回の調査では、江戸時代、鎌倉～戦国時代の遺構、平安時代、弥生時代、縄文時代の遺物が確認されたほか、今から2万年ほど昔の石の道具など、500点以上の旧石器時代の遺物が出土しました。

県内では旧石器時代遺跡の調査事例がまだまだ少なく、明らかにされてない部分が多く残されています。遺跡の立地や広がり、多量に出土した多彩な石器の数々、どのような景観が思い描けるのでしょうか。今後注目されていく遺跡の発見となりました。

E区

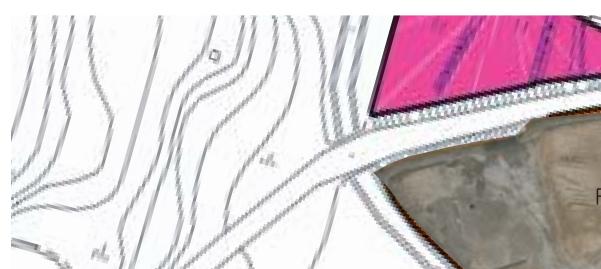
E区は岩田川の旧河道が検出されました。出土した山茶碗から平安時代終わり頃から鎌倉時代前半頃の河道であるとみられます。川際の低地と台地との境には鎌倉時代の溝がみられ、台地上には円形列石のような不思議な遺構もみられました。



蛇行して流れていた
岩田川の旧河道



旧河道から出土した山茶碗
(平安時代末)



C区

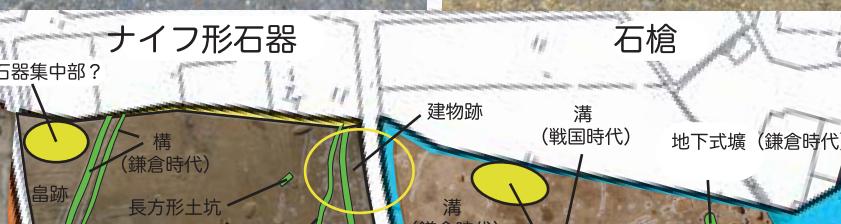
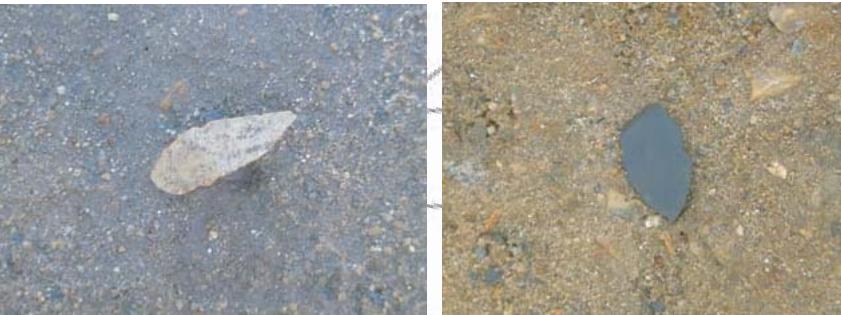
C区は鎌倉時代の遺構が中心で、溝、掘立柱建物、地下式壙（埋葬施設）などが確認され、今の地割と一致する戦国時代の溝も検出されています。他に時期不明の炉跡のある竪穴建物が確認されています。さらにC区からは、特に多くの旧石器が出土しており、県下最大級の旧石器時代の遺跡になる可能性があります。旧石器はナイフ形石器やスクレーパーなどの製品から石器を作る時に出た岩片（剥片、チップ）や石器を作る時に使用した敲石（たたきいし）なども見つかっています。



鎌倉時代の掘立柱建物跡



竪穴建物跡



鎌倉時代の地下式壙
(地下式の埋葬施設)



旧石器ブロック検出状況

D区

D区では縄文時代の土器が見つかった土坑や鎌倉時代とみられる地割の溝が見られます。また、時期不明の長方形の大型土坑が数ヶ所見られました。北東部には柱穴が多くみられ、南部には掘立柱建物跡を2棟検出しています。D区でも旧石器が見つかっており、今後調査を行って行く予定です。



縄文土器の出土状況

C区



建物跡と溝



近代以降の室（むろ）？
と弥生時代の溝



旧河道に沿う溝と杭列

B区

B区は調査が始めたばかりですが、中央部に旧河道が検出されました。江戸時代までに埋没したようです。弥生時代の溝、江戸時代の溝、杭列や近代の室（むろ）などが検出されています。



旧河道

・旧石器時代とは

ヒトとサルの祖先が進化の過程で分かれたのが、今から700~800万年前といわれています。そのヒトが道具を使い始めた段階（約250万年前）から、現在と同じくらいの気候に温暖化する約1万年前までの間が旧石器時代です。旧石器時代人は各地を移動しながら、狩りや木の実などの採取で生活を営んでいました。次の縄文時代と比べると、ムラに定住をせず、土器を作らないことが大きく異なる点です。



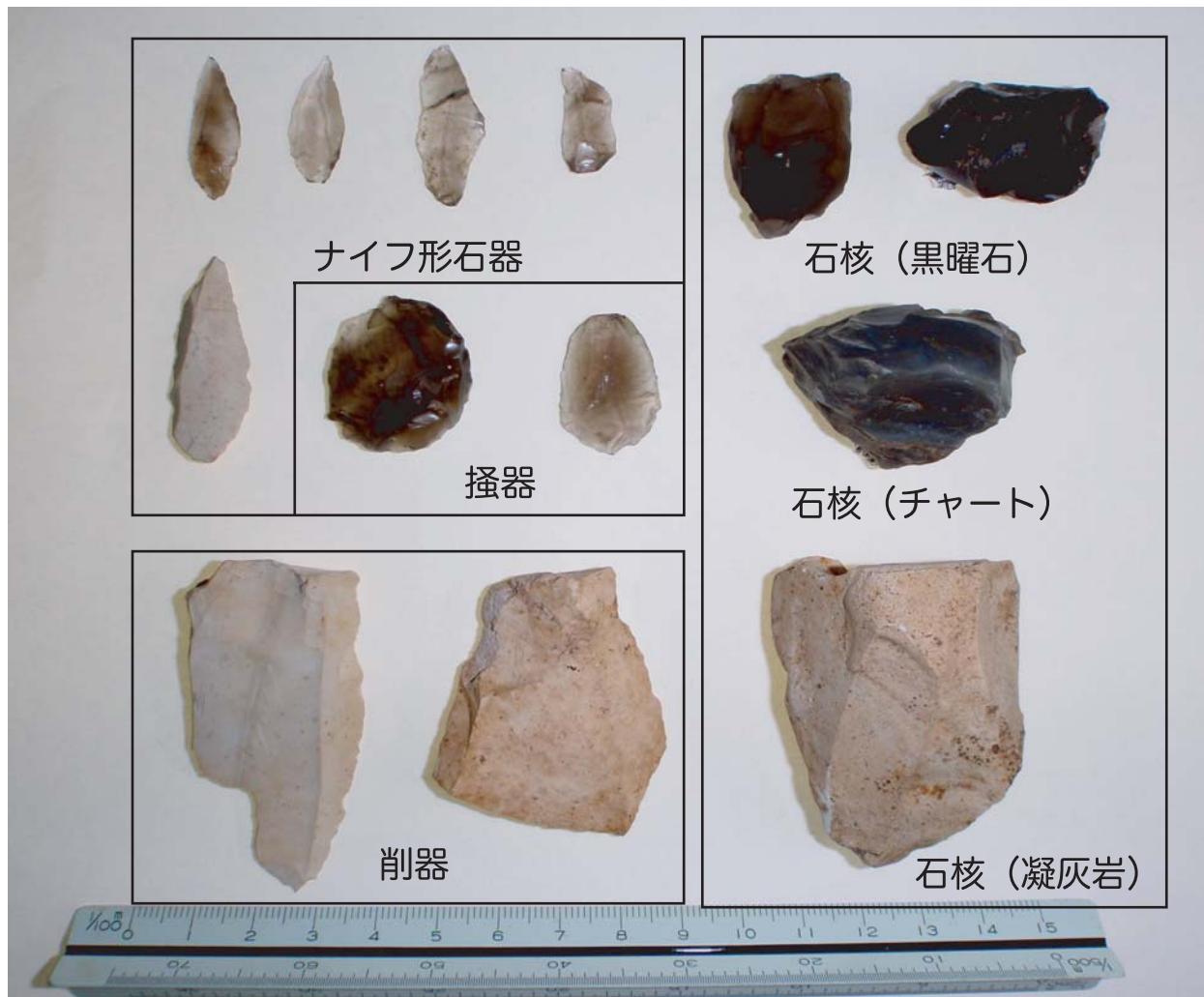
愛知県の主な旧石器時代遺跡

・愛知県では

愛知県史によると県内に存在する旧石器時代の遺跡は140箇所となっており、全国的には少ないほうです。また一遺跡から出土する石器の点数が少なく、大規模な遺跡となると豊田市駒場遺跡など数か所に限られています。そのため旧石器時代の愛知県の様子はよくわかっていない。西牧野遺跡における今回の発見は、県内でも珍しい事例といえるでしょう。

・西牧野遺跡では

これまでの調査で、C区とD区から約500点石器が出土しています。これらの出土した石器は約3万5千年前から約1万年前の後期旧石器時代の人々が使用していた道具です。当時は石器だけでなく木器や骨角器なども使用していたと思われますが、日本の土壤は酸性が強いため残っていません。出土した石器の特徴をみると、何度も時代を超えて旧石器時代人がこの地を訪れていたようです。



西牧野遺跡出土旧石器

・石器の種類

ひとくくりに「石器」といっても狩り道具から道具を作る石器まで様々な種類があります。当時の人は用途に合わせて様々な石器を作り上げています。石器には大きく2つの作り方があります。材料となる原石をそのままたいて仕上げる方法。もう1つが原石（石材）をたたき、割れた石片（剥片）を加工して石器に仕上げる方法です。下記にいくつか代表的な石器を紹介します。

・ナイフ形石器（ないふがたせっき）

剥片の縁辺の一部を鋭いま残し、他縁は加工して現代のナイフの形に仕上げます。その名の通りナイフとして使用するものと槍の穂先として使用するものの2種類あると考えられています。

・掻器（そうき）

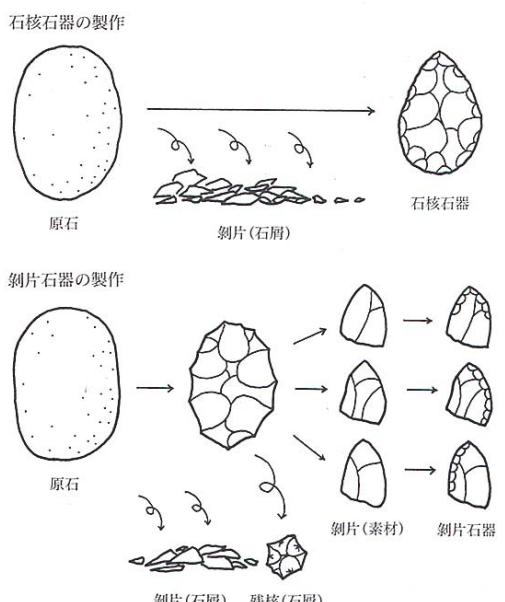
剥片の縁辺を加工して弧状の分厚い刃部を作り、獣皮の脂肪を削ぎ落とす道具と考えられています。

・削器（さっき）

剥片の縁辺を加工して鋭い刃部を作り出し、肉や木などを削り取るのに使用されたと考えられています。

・石核（せきかく）

石器を作るために剥片を打ち欠いた残りくず。



石器の製作工程

(稻田孝司『遊動する旧石器人』2001年より)



西牧野遺跡旧石器出土状況



石核（凝灰岩）出土状況



西牧野遺跡旧石器出土状況



ナイフ形石器（凝灰岩）出土状況